

令和 4年度 園評価書

園番号 44 園名 小河内こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな 小河内の子	「おもしろい」を みつけよう	子どもの興味関心を捉えた素材や道具を用意し、繰り返し試せる環境づくりをしている	子どもが自ら使いたいものを選び、並べたり、組み合わせたりできる可動遊具 (タイヤ・パレット・コンテナ・木 板・種・バスマット)等の環境を用意したことで「やってみよう」「面白そう」と遊ぶ姿から、「こうしたらどう?」「こうやってみよう」と、子ども自身が思いやイメージした事を納得がいくまで試し楽しむ姿が見られるようになった。素材や道具の特性、用途、扱い方に気づかせ、興味が持てるようにした。	A	A	・子ども達の願いや思い、試行錯誤を引き出すこと、子どもの“やりたい”思い、考えを膨らめる仕掛けや環境作りが一番力を入れてきたところだと思う	・毎日、遊びや活動を振り返る中で一人一人の思い、工夫、大変だった事等、保育者や友達と共有し次の遊びへの「興味関心」「イメージ」に活かしていけるようにする ・遊びの振り返り (遊び中、遊んだ後、帰りの時間)をタイミングよく行い、次につながる為のヒントを探っていく ・“面白い”が続く為の素材や道具等の性質、仕組み、扱い方にも関心が高まる環境を用意していく ・次年度、子どもの人数が減るので思いや考えを伝える経験をもどくように作っていくが課題となる
		子どものことばや思いを引き出す声かけや関わりをしている	子どものつぶやきや表情、しぐさから思いを受け止め、大人が先読みせず子どもからの言葉を待つようにしていった。自分の思いが相手に伝わる経験をしたことで、より自分から伝えようとする姿が増えてきた。一人一人の思い、遊びの共有、振り返りのタイミングを意識した。	B	A	・『“おもしろい”をみつけよう』このテーマがいい。コロナでいるんなことができない、やめよう、ダメでなく「おもしろい」「やってみよう」と思えることを増やしている。先生たちもナチュラルに動いている感じがとてもいい	
		友達と思いや考えを伝え合う中で、自分や友達の良さに気付く為の仲立ちをしている	保育者が子ども一人一人の良さ (得意なこと)や発想等を具体的な言葉にして認め、遊んでいる姿を写真に撮り保育室に掲示する。子ども達と一緒に体験したことを振り返り、共有しあう時間を大切にしている。また、子ども同士の関わりやつながりを見守り、仲立ちしている。友達と思いやイメージを共有できるよう言葉を補い、可視化していった。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	園児数が少ない為、行事や活動などを一緒に行うことが多いが、年長と年少の発達、経験の差を考慮し年少児の参加内容や時間を考慮した。また製作時は年齢に応じた素材や道具を選び提供したり活動や行事の取り組みについて「ねらい」や「経験させたい事」を明確にし取り組んだ。	B	B	・朝、先生たちが何か用意しているとおもしろそうだなあ…と大人もワクワクしてくる	保育者が年齢の発達をおさえ、ねらいや願いを持ち様々な素材や道具に出会えるよう季節ごと (行事や活動の度に)工夫する。次年度は年中・年少のみとなるので発達や経験を考慮し活動や遊びを進める。	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	「明日も来たい」と思えるような園の安心できる生活や遊びの時間を保障している	担任だけでなく、園の職員全員が一人一人の子どもの姿を見守り安心できる温かな関わりを心がけた。子ども達の興味・関心に気づき、声をかけたり、スキンシップをとり保育者も一緒に面白がりながら実体験を増やしていった。遊びの写真を振り返り時にも活用することで「明日もやりたい」「こんな風にしたい」とイメージが広がり自分がやりたいことを十分に楽しめる時間を保障した。	B	B	・先生方同士で工夫してくれていることをすごいと思う ・集団が大きくないことがネガティブに感じられない	子ども達が一人一人満足するまで夢中で遊び「おもしろかった!」という経験を繰り返し体験できるよう時間・環境の保障を引き続き行っていく。
		(3)環境を通して行う教育及び保育	「やってみよう」「おもしろそう」と使いたい素材や道具を選び継続して遊ぶことができる環境を整えている	「おもしろそう」「これを使ってみよう!」と自ら素材や道具を自分で選べるようにした。種類だけでなく量、素材の特性、今まで使ったことのない道具等、自分なりに試しながら取り組める環境と初めてのこと、物に出会う時の保育者の関わりを意識した。	B	A	・園が取り組んでくれていることの中で、子どもたちは自分で考えながら生活できていると感じる。そういうことが大事だと思う ・子どもたちがとても幸せそうに感じた	園にある素材、教材を把握し子どものやりたいタイミングで提供できるようにする。遊びの拠点づくりや再構成等保育者が行なう環境づくりについてみんなで共有していく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ねらいを明確にした避難訓練や不審者訓練を実施し非常時の判断力を養う。ヒヤリハットした出来事を全職員で共有し安全対策を確認している	様々な想定を基に、各訓練を実施した。マニュアルの読み合わせ、シミュレーションでの確認をしながら職員全体で対応の仕方を共有し、反省を次回に活かせるようにしている。突然起こる災害に対応する為の訓練となるよう、予告なしの設定で行うことで自身の役割を瞬時に考え声を掛け合う職員の姿が増えてきた。不審者対応の見直し、防犯ブザーの配置、事務室側の門に鍵の設置を行った。	B	B	・失敗しても子どもたちが自分でどうしたらいいのか考える。それがとてもいい	引き続き、職員一人一人の判断力をさらに高める為チェックリスト、訓練方法の見直し、シミュレーション会議を計画的に実施していく。「気付いたことボード」の活用を進め、ヒヤリハットを確実に共有していく。	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的生活習慣の自立に向けて、家庭と連携を取りながら個々に合った援助を行っている	生活習慣の自立に向けて、個々に合わせた関わりをしながら、歯磨き指導、食育活動等、家庭と情報を共有している。またコロナ禍である為、感染予防や体調の情報交換等家庭と連携をとっている。行事や活動については、感染対策に十分配慮し取り組み方を考え実施した。	B	B	・家庭でデジタルな遊びが増えていても、アナログな刺激を園でもらってきてくれている	健康、安全、食育に関する指導を家庭と連携して行っていくことの大切さを保護者に引き続き伝えていく	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人に合った支援計画をたて職員間で共有し、一貫性のある関わりをしている	安心して園生活を送ることができるよう支援計画を作成している。職員間で毎日の振り返りの時間に個々の姿や支援方法の共有を行った。園・学校・関係機関・保護者と連携を図り、意見交換や情報共有ができた。活動の見直しや内容が理解できるよう写真やイラストの活用や毎日の生活の流れを可視化し知らせていった。	A	A	・地区の目標が同じだからかもしれないが、小学校を「きゅっ」っと小さくして同じ方向に向かっていることを感じた	個々の良さや課題を明確にし、どの職員も同じ関わりができるように園内研修を充実させていく。	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が責任を持って発信し、協力して教育・保育を進めている	担当する分掌の進捗状況を月の会議で確認しあった。一人一人が受け持つ分掌が多い為、企画の段階で念入りに相談しあい、担当者が役割分担を明確にし全職員で協力して進めた。	B	B	・小学校でも子どもの興味、関心を大切にしながら、自分から行動をおこしていく、という所は一緒なので、大事にしているところが同じであるということがわかってよかった	担当リーダーが見通しを持ち、早めに計画する力をつけたい。職員数が減る為、分掌の内容検討が必要である。	
6 研 修	(1)研修体制の充実	重点目標や研修テーマを基に、日々の振り返りや園内研修で意見を出し合い環境及び援助の方法を共有している	毎日自身の保育を語りあい、月の反省では写真を活用し子どもの遊びや行動の意味づけを行い共有している。園内研修では付箋を使い積極的な意見交換ができていた。10の姿を基に子どもの成長を読み取り確認しあう研修も行っている。園の活動や遊びへの取り組みに見直しを持ち保育の組み立てに活かせる様につながるボードを学期ごと作成した。	B	B	・委員を始めて3年目だが、年々園のレベルが上がっているように感じている	つながるボードは、保育の共有や手立てを整理するだけでなく子どもの実体験と育ちの読み取りにも活用できているので引き続き作成する。「10の姿」を活用した読み取りも随時行っていく	
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが繰り返し考えたり試したりできるよう、子どもの発達や興味に沿った環境を工夫している	子どものつぶやき、振り返りの時の発言を基に仕掛けや環境づくりをした。答えを出すのではなく形、大きさ、性質の異なる素材を用意する等子ども達が試行錯誤しながら遊べるようにし、園内にある遊具、道具、素材を子どもの遊びや活動に利用できる環境として整えていった。子ども達向けのドキュメンテーション (振り返りボード)の活用が遊びの持続や展開に効果的だった。	B	A	・子どもの口から出てくるのが担任の先生だけの名前ではなく、どの先生からも子どものいろいろなエピソードが聞けるのは、積極的にコミュニケーションが取れている証だと思う	少人数の為、どうしても異年齢での環境設定になりやすい。次年度は3歳、4歳のそれぞれの発達にあった環境設定を意識し、少人数ならではの繰り返し考える、試すことを積み重ねられる環境を構成していく。	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びの中で育っている子どもの力や保育者の意図を可視化しながら保護者に伝え、子どもの育ちを共有している	保護者が参加する行事・活動の内容を工夫して子ども達の姿や成長を体感できるようにした。また保護者だけでなく、祖父母会を利用して日常の子どもの姿 (遊びや活動の過程が伝わるもの)や園生活をドキュメンテーションやスライドショーで見える化し、伝えたい思いや具体的な情報を発信していった。子育ての悩みに対して傾聴しアドバイスや定期的な声掛けを行い情報共有している。	A	A	・この発表を評議員だけで聞くのはもったいない。ぜひ地域の人たちにも聞いてほしいと思う	引き続き各家庭と、遊びの経過や子どもの育ちを送迎時、面談、ドキュメンテーション、クラスだより等を利用して共有していく。タイムリーな情報を発信するよう意識していく。	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小島地区の目指す子どもの姿に向かい近隣園、近隣校と情報交換したり、交流の機会を作ったりしている	小島地区の園・小学校・中学校の方との交流の場で「目指す子どもの姿」「子ども達の取り組み」「園としての悩み」等、情報発信し共有しあえた。小河内小、実原小と2校1園交流、小島こども園との交流と計画的に園児、児童同士の交流が実施できた。小河内小とはお互いに子どもの主体的活動を大事にしながら交流することができた。研究保育の協議会では小学校や他園の職員が参加し子どもの姿を捉える視点や育ち・課題について活発な意見交換の場を設けていった。	A	A	・今後の園運営について、園児の減少化が課題となるため、学校、園、保護者だけで心配するだけでなく自治体、行政も巻き込み本気で考えていかないといけないのではないだろうか	コロナ禍でもできる近隣園や学校との職員同士、園児・児童同士の交流を引き続き工夫していく。接続に向けて計画のない自発的な交流も引き続き取り入れていきたいが、次年度は年長が不在の為どのように進めていくか課題となる。	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の人や自然に触れる機会をもち地域に親しまれる園になっている	今まで積み重ねてきた地域の方々とのつながりや今年度からできたつながりを大切にしていっていった。園での活動に関わって下さっているPTA、おげんき会の方々、トークの会、サツマイモ作りの名人、移動販売車の方、素材提供の方等、お互い親しみをもちやり取りができています	A	A		自分たちの住む小河内の良さを実感できる取り組み、人とのつながりを楽しんだり深めたりする経験を増やしていきたい。地域の実態把握と存続への課題を確認する。	